

ターン

## 白井さんファミリー



田んぼサークルは手植え、無農薬、手刈り、天日干しで楽しんでいる。



夫婦で改修した家で楽しく暮らしている。

白井さんファミリーが名古屋から豊松町の空き家にてターン移住して来たのは2014年。自分たちが実感している田舎暮らしの豊かさを、センス良く魅力的に発信し、新たな移住につなげている。

ご主人の康文さんは名古屋市の出身で、お二人とも一級建築士。建築設計事務所「きとか」を営んでいる。豊かで美しい暮らしを伝えられる家に住みたい、緑ゆたかな場所で子育てをしたいという想いを持ち、それまで住んでいた名古屋から移り住んだ。移住先を3年ほど探していて、豊松町のこの家に自然と引き寄せられた感じだったそうだ。仕事で名古屋へ行くことも多いので松平ICが近いのも好都合だった。

家の改装は大工さんとご夫婦で1年ほどかけてじっくり行なった。持続可能な家づくりを自ら実践しようとして、落とした土壁も再利用。足りない竹は近所の山で調達したそうだ。

都会暮らしだったお二人にとって豊松町での暮らし

は素敵なことだらけ。季節ごとに感動できる景色も、採れたて野菜の美味しさも、何でも作れるお爺さんが居ることも、震災が起きても何とかかなりそうな安心感も、すべてがお気に入りです、お得意いっばい。

そんな豊かな田舎暮らしの魅力が友人知人たちにも伝えようと、周囲の自然や農地をいかしたワークショップやサークルも開いている。しめ縄や門松づくり、竹を使った流しそうめん、手作業の米づくりなど都会暮らしでは思いもしないことばかりだ。こうして白井さん夫妻自身が楽しんでいる暮らしや活動が、都市と山村をつなぎ、新たな交流人口やターン移住を生んでいる。

昨年度からは松平地区定住委員会の副委員長にも選ばれた。康文さんは「田舎で生まれ育った人はこの魅力に気づいていないだけです。それに気づいて地域が誇りを持って都会へ出て行く若者も減ると思うし、地域が楽しくなればUターンで戻ってくる人もきっと増えますよ」と楽しそうに話している。